

筑スポ

夏の主役!! 水泳部



競泳 9年ぶり全国公アベック優勝!!

飛込 インカレ男子団体連覇!

水球 インカレ準優勝! 日体大に惜敗

競泳



藤田真成選手(体育4年) 写真左
加藤昌子選手(体育4年) 写真右

猛暑が続いたこの夏、全国各地のプールで水泳部の活躍が光った。競泳部門は9年ぶりとなる全国公アベック優勝。飛込部門は、岡本選手が日本選手権で優勝しアジア大会への出場が決定、さらにインカレは男子団体連覇で終えた。また水球部門はインカレ決勝で惜敗したものの準優勝となった。勝利と惜敗を味わった夏の主役、水泳部の各主将に話を聞いた。(矢畑牙佳・大庭夏海)

水球



志水祐介選手(体育4年)

「日体大、もしくは実業団のブルボンとの決勝になると思う。そこに勝って優勝することが今の目標。」
日本代表に選ばれている、志水選手と棚村克行選手(体育4年)を中心に、どんな戦いを見せてくれるのか。日本一へ期待が高まる。

記録一覧

- 競泳
第57回全国公立大学選手権
男子
総合優勝
50m自由形 小林拓矢
優勝(大会新) 小林拓矢
200mバタフライ 優勝 菊池皓大
100m背泳ぎ 優勝 金子雅紀
200m背泳ぎ、200m個人メドレー 優勝 植木拓斗
100m平泳ぎ 優勝 若月哲也
400m個人メドレー 優勝 倉貫壮
400mリレー 優勝 河原・小林(啓)・中村・小林(拓)
400mメドレーリレー 優勝 阿由葉・若月・小林(啓)・河原
女子
総合優勝
100m・200m バタフライ 優勝 三輪彩奈
100m背泳ぎ 優勝 有田真紀
200m個人メドレー 優勝 山田絵梨花
200mリレー 優勝 柘原・佐藤・有田・世古
飛込
第86回日本選手権水泳競技大会 兼国際大会代表選考会
1m飛板飛込 優勝 岡本優
3m飛板飛込 優勝 岡本優
学校対抗 優勝 3m飛板飛込 優勝 岡本優
高飛込 優勝 岡本優
6位 岡本優
水球
第86回日本学生選手権大会 決勝戦
筑波大・8・10日体大

加藤・最終種目の400mリレーまでもつれました。私自身はリレーメンバーではなかったため、祈るしかありません。

岡本選手(体育4年) 日本選手権1m飛板飛込優勝

「個人としては、優勝するための練習しかしてきていないので、優勝して当たり前。演技の点数は落ちてしまったが、良い所もあり、全体的には満足している。学校別は勝ち負けは関係ない。学校別の立役者でもある岡本選手はこの勝利をどう思っているのだろうか。」

「練習メニューも休養のタイミングも、全て4年生が決めていた。大変だが、やらされている練習が多い日体大とは意識が違う」と主将の志水祐介選手は自信があった。日体大を撃破する自信はあった。

「今まで自分達がやってきたことをやれば勝てる。まずはミスでどだけ減らせるかが鍵になる。勝ちたいという気持ちを持ってほしい」と部長に話し、臨んだ決勝戦。3P終了時、筑波大が1点をリードしていた。ところが4Pが終わってみれば8・10で日体大の勝利だった。

「4Pでの自分達の小さなミスで、相手が見逃さずに突いてきた。今年は練習量の差を補えるだけの、密度の高い練習をしてこれたと思う。だが、最後に自分達の弱さが出たかな」と苦笑した。

目次 2面 3面 夏結果

4面 ダンスフェス スポテッお知らせ

筑波スポーツ 平成22年10月8日(金) 第140号 題字:中山雅史氏 蹴球部OB

関甲信 2010

硬式野球部

大会3連覇達成!
「ホッとしました」
そう言って優勝が決まった



瞬間の心境を語る今泉選手(体育4年)。3連覇がかかった今年の関甲信越大会、硬式野球部(以下、関甲信)でキャプテンを務め、見事に本学へ優勝カップを持ち帰った。

硬式テニス部

硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

を挙げ、関東甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

灼熱の

関甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績



灼熱の関甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

後攻の本学が1回に1点を先制。しかし、7回で埼玉大が1点を奪い同点に追いつき、その後は両者一歩も譲らなず、1-1のまま延長戦へ突入した。延長でも緊張した状況は続き、ようやく試合が動いたのは、12回裏の本学の攻撃だった。二死から山下選手(体育3年)が四球で出塁すると、横打と内野ゴロで三塁まで進み、相手バッテリーにミスが生じて1点を先制。次に試合が動いたのは4回だった。満塁から財津宗一郎選手(体育2年)が中前へ適時打を打ち、続く代打崎原悠介選手(体育4年)の中飛で2点の追加点をあげた。勢いに乗った本学は、8回に2点、9回にダメ押し3点を奪い、8-0の圧勝で宇都宮大打線

た。後攻の本学が1回に1点を先制。しかし、7回で埼玉大が1点を奪い同点に追いつき、その後は両者一歩も譲らなず、1-1のまま延長戦へ突入した。延長でも緊張した状況は続き、ようやく試合が動いたのは、12回裏の本学の攻撃だった。二死から山下選手(体育3年)が四球で出塁すると、横打と内野ゴロで三塁まで進み、相手バッテリーにミスが生じて1点を先制。次に試合が動いたのは4回だった。満塁から財津宗一郎選手(体育2年)が中前へ適時打を打ち、続く代打崎原悠介選手(体育4年)の中飛で2点の追加点をあげた。勢いに乗った本学は、8回に2点、9回にダメ押し3点を奪い、8-0の圧勝で宇都宮大打線

種目	男子	女子
陸上競技	優勝(3年連続)	準優勝
バスケットボール	準優勝	準優勝
剣道	第3位	準優勝
ラグビー	A 準優勝	準優勝
卓球	男子 3位 女子 3位	準優勝
硬式野球	優勝(3年連続)	準優勝
サッカー	準優勝	3位
弓道	準優勝	準優勝
バレーボール	準優勝	準優勝
体操	準優勝	準優勝
柔道	準優勝	準優勝
テニス	準優勝	準優勝
水泳	準優勝	準優勝

第59回関東甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

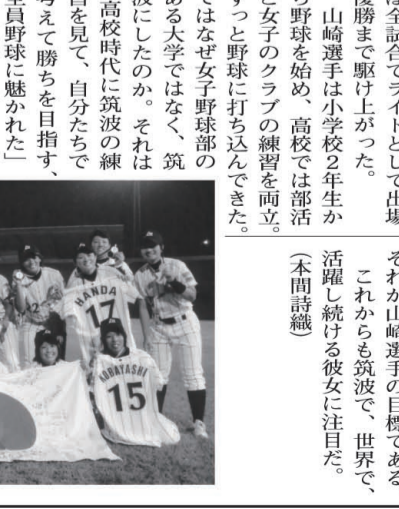
灼熱の関甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績



灼熱の関甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

全日本学生体操競技選手権大会(以下、全日本)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

灼熱の関甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績



灼熱の関甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

灼熱の関甲信越大会(以下、関甲信)で優勝した。硬式テニス部は2年ぶりのアベック優勝を目指して、関東甲信越大会(以下、関甲信)に出場した。硬式テニス部の実績(関東リーグ男子2部、女子2部)を考えると、関甲信に出場している大学の中では、男女共に頭一つ以上抜けているといえる状況である。しかし、実はここ数年続けて好成績

医学硬式庭球部女子 栄冠つかむ!!

第53回東日本医科学生総合体育大会(以下東医体)で、医学硬式庭球部女子が優勝の栄冠を手にした。今回は主将として東医体を率いた相賀咲(医学4年)と次期主将に就任した稲葉慶選手(医学3年)にお話を伺った。

彼女たちは関東医科歯科リーグ1部で今年3連覇を成し遂げている強豪だ。しかし東医体では2年連続3位と、優勝からは遠ざかっていた。「東医体は医学生最高の舞台。主軸である6年生最後の大会でもあり、優勝に対して強い気持ちがあった」と相賀選手は言う。

優勝までの道程は険しいものだった。3回戦以降は、いずれも強豪校との対戦。「どれも厳しい試合で、いつ負けてもおかしくなかった」と稲葉選手は話す。相手との技術的な差を感じることも多々あった。しかし、ここで活躍を見たのが、今大会のMVPとも言える吉澤理恵選手と佐藤真耶選手(共に医学6年)だ。長年レギュラー選手としてチームを牽引してきた2選手が、チームの苦境の中で力を発揮した。そして今大会の山場、山形大学との試合は、勝敗の行方が最終試合に委ねられる接戦。ここで勝利を取ることが出来たのが、結果的に優勝へ向けての大きな一歩となった。



格上の相手や接戦を制した要因は何だったのだろうか。その一つに、選手一人一人の成長を相賀選手は挙げた。「1年間テニスに懸けてきた人が多く、チーム力が向上した」と感じていたそうだ。また稲葉選手は、応援の力を挙げた。「団体戦は選手が一人で戦っていたのでは勝てない。応援の力で選手に力を与えることや、相手を圧倒することも必要。今回は力のこもった応援ができた」。

一見、実力・雰囲気・リーダー、どれも最高のものを持つチームを、相賀選手は「当初はバラバラだった」と振り返る。「実力はあったが、チームが1つにならなかった。なかった。しかし東医体に入り、団結力が日に日に増していくのを感じた。それが優勝を目標から確信できるものに変えた」。

「主将として貢献できたと思うと、すごく光栄」と笑みまみれに相賀選手。彼女が作ったチームをこれからは稲葉選手が背負う。「今年は下の学年が多く、実績ある上級生がリードしてきた今までは、新しいチーム。だからこそレギュラー以外も、皆でテニスを頑張る。チームにしたい。オフシーズン、部員一丸で練習に取り組みれば、シーズンインしたときの団結力が繋がると思うので」。

来季にはリーグ戦優勝マンパリの大半が残る。相賀選手は「優勝した感覚は必ずプラスになる。この気持ちを引き継ぎ、これからも優勝を続けたい」と目標を語る。稲葉選手は新戦力の育成プランを構想しているそうだ。来季のリーグ戦まで約半年。稲葉主将の作る新しいチームが、また新たな優勝の歴史を医学硬式庭球部女子に築くだろう。(斎藤千絵)

弓道部女子、全日本学生弓道選手権大会団体3位

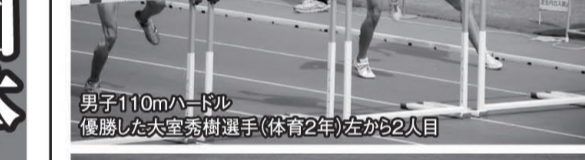
弓道部女子が全日本学生弓道選手権大会で団体3位に輝いた。大会は8月9日から11日に日本武道館で行われた。谷口志緒里選手(体育1年)、湯川可奈子選手(生物資源3年)、白石唯選手(体育4年)の3人が、計12射中何射的中するかで、勝敗を競った。

この結果に対して谷口選手は「3位は素直にうれしかった。でも満足していない」という。弓道部女子の目標は、9月半ばからのリーグ戦を制し、関東学生弓道選手権大会決勝大会への出場権を勝ち取ること。そして中関東と南関東の代表校と対決して優勝し、11月末に伊勢神宮弓道場で開催される全日本学生弓道王座決定戦に出場することだ。昨年は惜しくも関東大会で東海大学に敗れての準優勝であった。

陸上日本インカレ 大室110mH制す!! 女子は2年連続優勝

9月10、12日にかけて、国立競技場で行われた日本学生陸上競技対校選手権大会。今年第79回目を迎える今大会においても、例年どおり日本中から猛者が集結した。残暑も厳しく、日中は30℃を超える暑さの中、選手たちによる熱戦が繰り広げられた。また、個人優勝は1つに留まった。

今大会では、男女合わせて一発失格制度が導入され、男子110mハードルでは大室秀樹選手(体育2年)が13秒76で制した。大室選手は春に怪我をしたため、関東インカレではその悔しさをバネにして見事優勝を勝ち取った。また今大会からライティングの導入も実施された。



男子110mハードル 優勝した大室秀樹選手(体育2年)左から2人目



男子800m 2位となった中村康宏選手(体育2年)左

弓道部女子団体 インカレ3位!!

この結果に対して谷口選手は「3位は素直にうれしかった。でも満足していない」という。弓道部女子の目標は、9月半ばからのリーグ戦を制し、関東学生弓道選手権大会決勝大会への出場権を勝ち取ること。そして中関東と南関東の代表校と対決して優勝し、11月末に伊勢神宮弓道場で開催される全日本学生弓道王座決定戦に出場することだ。昨年は惜しくも関東大会で東海大学に敗れての準優勝であった。

8月26日・27日に行われた関東学生大会では、優勝した弓道部女子だが、試合は「チームの力が出し切らなかった」と不完全燃焼の内容だったという。しかし「気持ちだけはもう次」だそうだ。「自分のやるべきことをすれば、結果は付いてくる」を信条に、目指す王座戦に向けて1試合1試合、確実に勝ち進んでほしい。(鶴川香奈子)

男子110mハードルでは大室秀樹選手(体育2年)が13秒76で制した。大室選手は春に怪我をしたため、関東インカレではその悔しさをバネにして見事優勝を勝ち取った。また今大会からライティングの導入も実施された。

また今大会では、男女合わせて一発失格制度が導入され、男子110mハードルでは大室秀樹選手(体育2年)が13秒76で制した。大室選手は春に怪我をしたため、関東インカレではその悔しさをバネにして見事優勝を勝ち取った。また今大会からライティングの導入も実施された。

男子走り高跳びでは、戸邊直人選手(体育1年)が2位となった。戸邊選手は世界ジュニア選手権で3位という実績をもち、また今大会エントリー選手の中で唯一の2m20cm台のジャンパーであり、今大会のランキングも1位であった。したがって優勝を逃したことで、悔しさの残る結果となった。

また今大会では筑波の選手たちにとって想定外ともいえる苦しい展開もみられた。まず男子4x400mリレーでは昨年の日本インカレや、今年の関東インカレで優勝した男子チームがまさかの予選敗退。また女子4x400mリレーでは、今年の関東インカレで優勝した、関東学生新記録を樹立した女子リレーチームがこちらもまさかの予選敗退(稲嶋ひろな)



種目	結果
【硬式野球部】	首都大野球秋季リーグ戦 筑波大○2-1●城西大 筑波大○2-1●東大 筑波大○2-1●東大 筑波大○2-1●東大
【女子サッカー部】	関東学生女子サッカーリーグ戦 筑波大○3-1●早稲田大 筑波大○3-1●早稲田大 筑波大○3-1●早稲田大
【女子バレーボール部】	関東学生バレーボールリーグ戦 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大
【女子バスケットボール部】	関東学生バスケットボールリーグ戦 筑波大○74-69●慶應大 筑波大○74-69●慶應大
【柔道部】	世界柔道選手権大会 男子66kg級 優勝 藤森純平 男子73kg級 3位 栗野靖浩 男子90kg級 2位 西山大希 女子78kg級 3位 緒方重香里
【体操部】	第6回全日本学生ラト選手権大会 男子 団体3位 女子 個人総合 優勝 堀口文 3位 黒田ふゆ子
【カヌー部】	日本カヌープリント選手権大会 成年女子カヤックシングル 1000m 2位 小野祐佳 A決勝2位 小野祐佳 成年女子カヤックシングル 500m 4位 小野祐佳 B決勝3位 田畑薫 成年女子カヤックシングル 200m A決勝3位 小野祐佳 成年男子カナディアンフォア 500m A決勝3位 近藤祥仁

結果一覧

種目	結果
【男子バレーボール部】	秋学関東学生バレーボールリーグ戦 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大
【女子バレーボール部】	秋学関東学生バレーボールリーグ戦 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大
【女子バレーボール部】	秋学関東学生バレーボールリーグ戦 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大
【女子バレーボール部】	秋学関東学生バレーボールリーグ戦 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大 筑波大○0-3●東海大

3年ぶり最高賞受賞!!

文部科学大臣賞



ダンス部 ~坐ることを拒む椅子~

岡本太郎の「坐ることを拒む椅子」という作品がある。赤や青、黄色といったビビットな原色を用いた椅子の座面には、強い主張を思わせる表情が描かれ、人が座することを頑なに拒否している。人間と「対等」に振舞う椅子が表すのは、当たり前だと思っていた日常の中にある、突然の非日常だ。

今回演じられた「坐ることを拒む椅子」では「当たり前だと思っている人間関係が、ぎりぎりのところで成り立っていて、いつ壊れるかわからない不安定なものであること」を、椅子を用いて表現した。数十個の座面を取り去った椅子を使い、椅子を人に見立てることで、アンバランスな人間関係を表現した。また、衣装も椅子もモノクロを基調としたが、椅子の脚や、衣装の内側を赤くすることで、日常の中に垣間見える人間の内面の生々しさを表現した。

そのようなこの舞台で何よりも表現したかったのは、「そうした人間関係にまっすぐに向き合ってほしい」ということだと河合史菜主将(体育3年)は語る。

実際に、中々時間が合わずに設けることが出来ない出演者同士でのミーティングも例年より多く、練習の段階でもお互い真摯に向き合う時間があった。真つ向から向き合い、話を深めていくことで、作品の深みも増していったという。作品の大本の部分を考える作者の気持ちや、お互いに日ごろ言えない些細なことなどは、部日誌に書き込み、メンバー間での理解を深めていった。そうやって作り上げられていったものが「絆」であると、河合主将は少し照れつつ語ってくれた。

「一番を取るとかという思いが強かったんで、伝統というプレッシャーはあまり感じなかった」という河合主将。本番でも大きな失敗もなく、出演者全員がやりきった。「受賞したとき、結果が出てうれしかったという気持ちよりも、応援してくれていた顧問の先生方、先輩たちへの感謝の気持ちがわいてきた」との河合主将の言葉から、熱意を持ったその行動が、周りを動かし、結果以上のものを産み出したことを感じさせる。こだわってきた結果に対する喜びよりも、感謝の気持ちが湧いてきたという主将の言葉に、今後のダンス部の益々の活躍を期待してしまう。

2009年10月秋、今回のダンスフェスティバルに向けた練習がスタートした。体専以外の学群からの新入生や、未経験者が入部することも多いダンス部だが、今年を中心メンバーは4人全員が経験者かつ、高校生のときに全国ダンスフェスティバルへの出場経験を持っていた。他のスポーツに比べて競技性の低いダンス部だけに、「勝利」という言葉は例年あまり表立って現れないが、今年の幹部代は「全国1位」というタイトルへの執着を素直に表した。高校のときから受賞を目指してダンスに取り組んでいたという経験と、「今年こそは受賞したい」という思いを、今年こそは「全国1位」という言葉によって現れた。

その熱意に周りが動かされていく。「同じことをしては何か変わるかな」という顧問の叱咤を受け、新しく様々な試みを行った。今までのダンス部にはなかった部日誌を導入。技術の向上のために、練習時間を延ばして基礎トレーニングであるパレレーズを毎日行うようにした。また、現在筑波大に勤めているOGに頼み込み、週2回のコーチを引き受けてもらった。

「受賞したとき、結果が出てうれしかったという気持ちよりも、応援してくれていた顧問の先生方、先輩たちへの感謝の気持ちがわいてきた」との河合主将の言葉から、熱意を持ったその行動が、周りを動かし、結果以上のものを産み出したことを感じさせる。こだわってきた結果に対する喜びよりも、感謝の気持ちが湧いてきたという主将の言葉に、今後のダンス部の益々の活躍を期待してしまう。

Sports Day
第34回秋季スポーツデー

10/23・24開催!!
(土) (日)

~最近スポーツ忘れてるんじゃない?~

筑波大学ダンス部主催

DANCE EXPRES VOL.5

つながる ひろがる ダンスの輪

参加団体: 筑波大学ダンス部、Dance Association Seeds、REAL JAM、応援部WINS、運動伴奏法、斬桐舞

日時: 2010年11月11日(THU)
開場 18:30 開演 19:00

場所: つくばカピオホール(つくば駅徒歩5分)

チケット: 前売500円 当日700円(全席自由)

【チケット問い合わせ】
080-5380-8311
tsukuchike48@yahoo.co.jp
誠に勝手ながら、前売券のお申し込み受付は11月10日23時までとさせていただきます。

【舞台監督】堀内麻由 【指導】村田芳子 平山素子 寺山由美 【協力】筑波大学舞踊研究室 Dance Association Seeds(DAS)

発行所/
筑波大学体育会
(TEL.029-853-2589)
発行人/一杉 亮
編集/
筑波スポーツ編集部
責任者/
斉藤 千絵 (編集長)

編集後記

こんにちは！今号も筑波スポーツを手にとってくださいありがとうございます。今夏は猛暑が続く、夏バテしていた方も多いのでは無いでしょうか？私もへろへろでした。しかし筑波のスポーツは気温以上に熱かった！編集部も毎回ネタが尽きず、万々歳です。さて、9月になって暑く暑い日が続いたわけですが、夏休み明け授業に出席してみるとまさか！教室にクーラーがありませんでした。未だに冷房がない教室なんてあったのですね。4限という、熱さが最高潮の時間帯、汗だくになりました。みなさん、第2エリアにはもしかししたら暖房もありませんでした。注意してくださいませ！

今号制作にあたって、多くの方から協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。涼しくなってくる10月にはスポーツデーが開催されます。観戦だけではなく、自らもスポーツを楽しんでいきましょう！

（斉藤千絵）

編集長
編集スタッフ
斉藤 千絵 (比文3年)

本間 詩織 (体育3年)

有田 和晃 (シス情1年)
板谷 悠人 (シス情1年)
田村 俊和 (シス情1年)
李 維悦 (人社1年)

西邑 拓也 (体育4年)
太田和 幸子 (社会4年)
山川 晋弥 (自然4年)
稲嶋 ひろな (社会3年)
住田 有希恵 (体育3年)
萩尾 奈緒香 (社会3年)
上杉 織美 (日2年)
小島 菜奈美 (資源2年)
瀧川 香奈子 (比文1年)
大庭 夏海 (人文1年)
矢畑 冴佳 (人文1年)